
大腸がん検診

大腸がん検診（便潜血検査）の実施成績

川崎成郎

東京都予防医学協会消化器診断部長

はじめに

東京都予防医学協会（以下、本会）では、1986（昭和61）年より便潜血検査による大腸がん検診を実施している。そして、1次検査で陽性となった精密検査対象者には大腸がん追跡調査用紙を配布し、受診した提携先医療機関またはそれ以外の医療機関より精密検査の結果を返信していただくという、追跡調査システムを実施している。なお本システムの対象者は職域検診、地域検診、人間ドックの受診者である。

便潜血検査は、抗ヒトヘモグロビン・マウスモノクローナル抗体を利用した金コロイド凝集反応で便中のヘモグロビンを測定する免疫比色法（富士フィルム和光純薬）により、大腸内の出血の有無を調べ

る方法である。

1日のみ採便する1日法と2日間採便する2日法があり、検査委託団体や健康保険組合との契約により異なる。また、検体は基本的には検診時に回収しているが、10月中旬～2月に実施する一部の事業所では郵送による回収も行っている。

本稿では、2022（令和4）年度の大腸がん検診の実施成績と結果について報告する。

受診者数と年齢分布

大腸がん検診総受診者数は男性35,684人、女性26,897人の計62,581人で、男女比は1.33:1と男性が多くなっている。男女比率を検診別にみると、男性は職域検診では61.5%、人間ドックでは63.9%に対

表1 検診区分別・年齢別分布

検診区分	性別	年 齢 区 分							総計	男女比率 (%)
		～29歳	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80歳～		
職域	男性	380	2,559	8,401	9,964	4,882	691	103	26,980	(61.5)
	女性	471	1,700	5,808	5,974	2,414	462	54	16,883	(38.5)
	合計 (%)	851 (1.9)	4,259 (9.7)	14,209 (32.4)	15,938 (36.3)	7,296 (16.6)	1,153 (2.6)	157 (0.4)	43,863 (70.1)	
地域	男性		38	1,029	542	732	832	182	3,355	(32.4)
	女性		54	2,238	1,832	1,466	1,210	194	6,994	(67.6)
	合計 (%)		92 (0.9)	3,267 (31.6)	2,374 (22.9)	2,198 (21.2)	2,042 (19.7)	376 (3.6)	10,349 (16.5)	
人間ドック	男性	13	865	1,656	1,716	902	189	8	5,349	(63.9)
	女性	20	506	1,010	958	434	89	3	3,020	(36.1)
	合計 (%)	33 (0.4)	1,371 (16.4)	2,666 (31.9)	2,674 (32.0)	1,336 (16.0)	278 (3.3)	11 (0.1)	8,369 (13.4)	
全体	男性	393	3,462	11,086	12,222	6,516	1,712	293	35,684	(57.0)
	女性	491	2,260	9,056	8,764	4,314	1,761	251	26,897	(43.0)
	合計 (%)	884 (1.4)	5,722 (9.1)	20,142 (32.2)	20,986 (33.5)	10,830 (17.3)	3,473 (5.5)	544 (0.9)	62,581	

し、地域検診においては女性が67.6%と高い傾向を示した。検診区分としては職域検診が43,863人(70.1%)、地域検診は10,349人(16.5%)、人間ドックは8,369人(13.4%)であり、2021年度より職域検診では2,640人、地域検診では341人、人間ドックでは334人とそれぞれ増加した。職域検診については、2021年度に過去5年間において初めて受診者数が減少したが、2022年度は過去最高の受診者数となった。

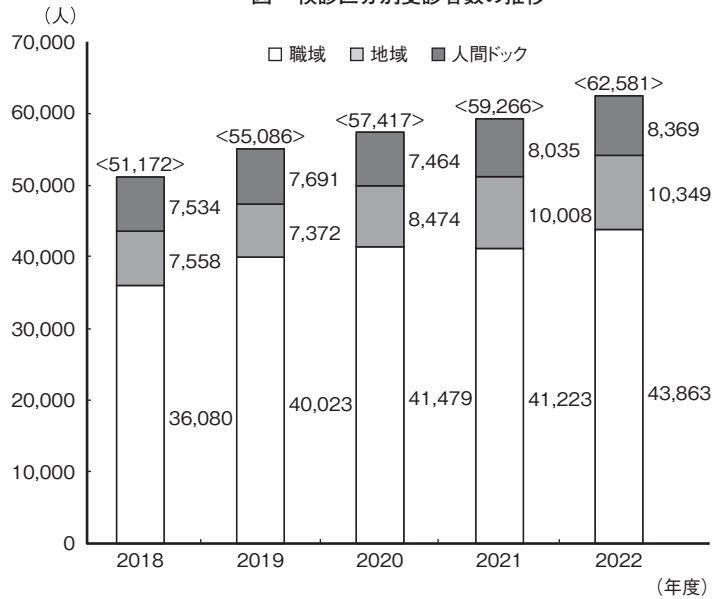
受診者数の年齢分布は、男性は職域検診・人間ドックは50～59歳が最も多く、地域検診では40～49歳が最も多いという結果となった。

次いで女性においては職域検診で50～59歳が最も多く、地域検診・人間ドックともに40～49歳が最も多いという結果であった(表1)。

受診者数の推移

検診区分別受診者数の推移を示した(図)。2021年度と比較すると、受診者数が全体で3,315人(5.59%)

図 検診区分別受診者数の推移



の増加であった。年ごとに受診者の増加傾向は続いており、増加率については、2020年度(4.23%)、2021年度(3.22%)と低め傾向であったが、2022年度(5.59%)は、2年ぶりに5%台となった。

検診結果

職域検診での便潜血検査の要精検者数は3,085人、

表2 検診結果

検診区分	性別	総受診者数	1次検診結果		精検受診者数	精検未把握者数	精密検査診断結果							大腸がん陽性反応適中度
			異常なし	要精検			大腸ポリープ	大腸憩室症	炎症性腸疾患	痔核	異常なし	その他	大腸がん	
職域	男性	26,980	24,943	2,037	352		184	32	10	11	93	6	16	
	女性	16,883	15,835	1,048	227		76	22	5	12	107	3	2	
	合計	43,863	40,778	3,085	579	2,506	260	54	15	23	200	9	18	
		(%)	(92.97)	(7.03)	(18.8)	(81.2)							(0.041)	(0.58)
地域	男性	3,355	3,059	296	114		76	9	2	8	16	1	2	
	女性	6,994	6,536	458	217		86	27	4	16	70	6	8	
	合計	10,349	9,595	754	331	423	162	36	6	24	86	7	10	
		(%)	(92.71)	(7.29)	(43.9)	(56.1)							(0.097)	(1.33)
人間ドック	男性	5,349	4,968	381	82		43	6	1	3	23	1	5	
	女性	3,020	2,810	210	40		24	6	0	0	9	1	0	
	合計	8,369	7,778	591	122	469	67	12	1	3	32	2	5	
		(%)	(92.94)	(7.06)	(20.6)	(79.4)							(0.060)	(0.85)
総計	男性	35,684	32,970	2,714	548		303	47	13	22	132	8	23	
	女性	26,897	25,181	1,716	484		186	55	9	28	186	10	10	
	合計	62,581	58,151	4,430	1,032	3,398	489	102	22	50	318	18	33	
		(%)	(92.92)	(7.08)	(23.3)	(76.7)							(0.053)	(0.74)

要精検率は7.03%で、精検受診者数は579人、精検受診率は18.8%であった。大腸がん発見率は0.041%（男性16人、女性2人）で、陽性反応適中度は0.58%であった。

地域検診での便潜血検査の要精検者数は754人、要精検率は7.29%で、精検受診者数は331人、精検受診率は43.9%であった。大腸がん発見率は0.097%（男性2人、女性8人）で、陽性反応適中度は1.33%であった。

人間ドックでの便潜血検査の要精検者数は591人、要精検率は7.06%で、精検受診者数は122人、精検受診率は20.6%であった。大腸がん発見率は0.060%（男性5人、女性0人）で、陽性反応適中度は0.85%であった。

今回、職域検診・地域検診・人間ドックすべての健診で受診者の増加が認められたものの、全体の精検受診率は若干の増加を示したのみで、職域検診（18.8%）と人間ドック（20.6%）は変わらず低いままであった。

精検受診者1,032人の精検結果の内訳は、大腸がん以外では大腸ポリープが最も多く、次いで大腸憩室症、痔核、炎症性腸疾患の順であった。その他としては直腸粘膜症候群、裂肛などがあった（表2）。

発見された大腸がんの特徴

2022年度に発見された大腸がんは33人であり、内訳は男性23人、女性10人で男女比は2.3:1であった。

早期がんは26人（78.8%）、進行がんは7人（21.2%）であった（表3）。

大腸がん検診のまとめ

本会における2022年度の大腸がん検診受診者数は62,581人で、2021年度の59,266人から5.59%増加した。

表3 発見がんの特徴

	(2022年度)	
	早期がん	進行がん
発見数	26人	7人
〔組織型別〕		
腺がん	7	4
不明	19	3
〔肉眼分類別〕		
0-I p	8	
0-I sp	2	
0-I s	3	
0-II a	3	
0-II a+c	2	
2型		4
不明	8	3
〔深達度別〕		
M	5	
SM	4	1
MP		
SS		2
SE		1
不明	17	3
〔病期別〕		
0期	4	
I期	3	
II期		2
III b期		1
不明	19	4

要精検率は7.08%（2021年度6.49%）と許容値（7%以下）を若干上回り、要精検者数も増加した。精検受診率は23.3%と2021年度の20.8%から増加した。精検受診者数は1,032人と、2021年度の801人から231人の増加がみられた。要精検率からみれば大腸がん検診に関する意識は向上してきたと思われる。大腸がん検診に関するさらなる啓発により、受診者をより増加させることに努めていきたい。

本会では大腸がん検診精検受診率の向上を目的に、2015（平成27）年4月から全大腸内視鏡検査を導入している。2022年度の要精検者数からみると、依然として十分な成果を上げているとは言い難い。今後は要精検者が確実に精検を受けるような受診勧奨方法を確立したい。要精検者が強い認識を持てるような案内をより徹底することが必要である。